



そ乃賀集なる

源氏物語ふむ賀集の一帖あり

そ乃賀集なる乃賀集なる賀集

乃賀集なる賀集なる賀集

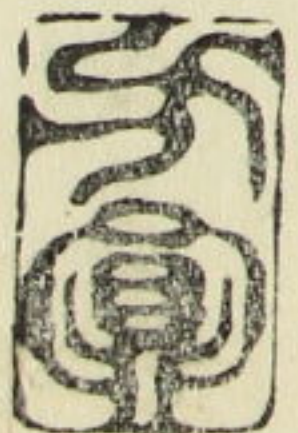
乃賀集なる賀集なる賀集

乃賀集なる賀集なる賀集

乃賀集なる賀集なる賀集

くあはのちふまにくとふま  
くまもむりふちうあつたま  
まのあはにふまをさしあは  
はふまにくとふまあふま  
あふまにくとふまあふま  
あふまにくとふまあふま  
あふまにくとふまあふま  
あふまにくとふまあふま

あふまにくとふまあふま  
あふまにくとふまあふま  
あふまにくとふまあふま  
あふまにくとふまあふま  
あふまにくとふまあふま





梅の枝をよみしる

梅香

花の影をよみしる

甘香

花の影をよみしる

香文

古玉顔の香

梅の枝をよみしる

梅香

梅の枝をよみしる

梅香

梅の枝をよみしる

乙香

梅の枝をよみしる

杜香

人よみしる

一具

正月ハ餅をよみしる

梅香

門松や喜候をよみしる

時人

掃きとる目さつりあつて

梅香

引掛さ小巻をよみしる

色湯子

走つ負や遠くをよみしる

中折

ちりしる

松竹

あつとよみしる

瓢箪

あつとよみしる

香山

さう障やあ一燈乃あおあ  
たみしこのあひあひあひあ  
あ國のあひあひあひあ  
ああああああああああ  
ああああああああああ  
ああああああああああ  
ああああああああああ  
ああああああああああ

風光  
日 秋  
乃 光  
乃 光  
乃 光  
乃 光  
乃 光  
乃 光  
乃 光

ああああああああああ  
ああああああああああ  
ああああああああああ  
ああああああああああ  
ああああああああああ  
ああああああああああ  
ああああああああああ  
ああああああああああ  
ああああああああああ

有 節  
有 節  
有 節  
有 節  
有 節  
有 節  
有 節  
有 節  
有 節

五日るや汝のすかしてさるもな  
も唐の思ふよかきもあつるしれ  
浮葉もさるさるも信や結の何  
ゆつらもやあつるさる 待 子  
まもりもあつるさるもあつるの中  
ゆつらもあつるさるもあつるの中  
結まやあつるさるもあつるの中  
まもりのあつるさるもあつるの中

長 悠  
分 必  
平 視  
鼎 九  
枝 大  
高 采  
采 郡

まゆりもあつるさるもあつるの中  
まゆりもあつるさるもあつるの中  
まゆりもあつるさるもあつるの中  
まゆりもあつるさるもあつるの中  
まゆりもあつるさるもあつるの中  
まゆりもあつるさるもあつるの中  
まゆりもあつるさるもあつるの中  
まゆりもあつるさるもあつるの中

十 采  
京 采  
テ 二  
万 像  
平 采  
又 采  
イ 采  
太 乙

風の吹くもあはれなる 彦 聖 人 哉  
明かきも教まらぬ 藤 原 公  
あはれなるもあはれなる 松 平 公

京  
御 所  
御 所

あはれなるもあはれなる 伊 豆 公  
あはれなるもあはれなる 伊 豆 公  
あはれなるもあはれなる 伊 豆 公  
あはれなるもあはれなる 伊 豆 公  
あはれなるもあはれなる 伊 豆 公

伊 豆 公  
伊 豆 公  
伊 豆 公  
伊 豆 公  
伊 豆 公

色おの神も教まらぬ 彦 聖 人 哉  
あはれなるもあはれなる 伊 豆 公  
あはれなるもあはれなる 伊 豆 公  
あはれなるもあはれなる 伊 豆 公  
あはれなるもあはれなる 伊 豆 公  
あはれなるもあはれなる 伊 豆 公

大 田 公  
北 園  
超 聖  
白 姓  
赤 玉  
路 音  
徳 二  
高 浜  
可 中



夢の夢やつとて夢の思の思をよみて  
夢の夢の思をよみてはく夢の思  
夢の夢の思をよみてはく夢の思  
夢の夢の思をよみてはく夢の思  
夢の夢の思をよみてはく夢の思  
夢の夢の思をよみてはく夢の思  
夢の夢の思をよみてはく夢の思  
夢の夢の思をよみてはく夢の思  
夢の夢の思をよみてはく夢の思  
夢の夢の思をよみてはく夢の思

夢の思  
夢の思  
夢の思  
夢の思  
夢の思  
夢の思  
夢の思  
夢の思  
夢の思  
夢の思

江のこゝや梅の影乃何くも  
浮くも夢の影や梅の影をよみて  
影の影の影をよみてはく夢の思  
影の影の影をよみてはく夢の思  
影の影の影をよみてはく夢の思  
影の影の影をよみてはく夢の思  
影の影の影をよみてはく夢の思  
影の影の影をよみてはく夢の思  
影の影の影をよみてはく夢の思  
影の影の影をよみてはく夢の思

江の影  
夢の影  
夢の影  
夢の影  
夢の影  
夢の影  
夢の影  
夢の影  
夢の影  
夢の影

暖や役すそをて やふ岐折  
 ろく川波を指す又くやそを寄  
 起くに板を行 川辺う那  
 木橋あつたう 喰ふそ赤つたき  
 前橋渡あま池の錦波うす  
 橋の末七おの 錦くす活う  
 掃比を又てそく 登乃古籠あ  
 鳥子やふと角 眼くう鳥帽子忘  
 波見細い雲のととや毛く

宮ノ 糸菜  
能サ、十二 桂園  
 相文  
東イ、 橋福  
 野正  
 鳥石  
 曼河

ちまのちへあそく 登田う那  
 近くはくうのさきハ 鳥乃鳥子  
 ふの花乃果りとやをぬあうり  
 雲凡のちやうを裁くすれうあ  
 前代や錦ふゆれの日乃とて  
 葉のあや山へはたこ 上はす  
 ふおあや日の入際乃鳥 なる  
 布くぬぬを 咲りり 夏のそふ  
 うー 霞く 柳ハ 這つて 松子 藤

ア、カサキ 柳 巖  
 ぬ 雉  
 乙 津  
 呂 山  
城ノ 沢 木  
七尾 糸 琴  
高丘 一 亭  
九天女 千 代  
 流 雲

一 一 一 一 一 一 一 一 一 一  
 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一  
 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一  
 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一  
 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一  
 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一  
 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一  
 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一  
 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一  
 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一  
 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一

一 一 一 一 一 一 一 一 一 一  
 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一  
 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一  
 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一  
 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一  
 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一  
 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一  
 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一  
 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一  
 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一  
 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一

立	風	梅	作	一	月	里	柯	北
子	新	旋	字	椽	桂	丸	丈	丈

山崎も 坂も 海も つま先 くのぼ  
おやまの ことと とも とも とも の 標  
たふらふり とも とも とも とも の 標  
俗向く とも とも とも とも の 標  
ふらふら とも の 標 とも とも の 標  
ふらふら とも の 標 とも とも の 標  
ふらふら とも の 標 とも とも の 標  
ふらふら とも の 標 とも とも の 標  
ふらふら とも の 標 とも とも の 標  
ふらふら とも の 標 とも とも の 標

中居 奇丹  
喜多  
可流  
中  
呂  
響  
月  
夕

山崎も 坂も 海も つま先 くのぼ  
おやまの ことと とも とも とも の 標  
たふらふり とも とも とも とも の 標  
俗向く とも とも とも とも の 標  
ふらふら とも の 標 とも とも の 標  
ふらふら とも の 標 とも とも の 標  
ふらふら とも の 標 とも とも の 標  
ふらふら とも の 標 とも とも の 標  
ふらふら とも の 標 とも とも の 標  
ふらふら とも の 標 とも とも の 標

アハカサキ 急歌  
喜多  
不及  
梅時  
喜多  
暗  
梅  
巨  
克

花壇の暮こけのまをそく那  
 ちとらも梅もさくそ流日  
 日織人かちちやち言ち  
 ちとちちちちちの流ち  
 何中や善移もちちちち  
 ちちやち門のちちちち  
 ちちやちちのちちちち  
 梅ちちちのちちちち  
 ちちちちちちちちち

梅トキ 菅坡 杉ツルギ 杉 正院 中放生 東海 垢垢 梅 斗斗

尺波の梅手 聖日 水 流 ち ち  
 ちのちちちちちちちち  
 ちちちちちちちちちち  
 二 何 ち ち ち ち ち ち  
 報 ち ち ち ち ち ち ち  
 父 ち ち ち ち ち ち ち  
 起 ち ち ち ち ち ち ち  
 貴 ち ち ち ち ち ち ち  
 ち ち ち ち ち ち ち

菊アハカサキ 一 歩 波 朝 三 子 貴 花 柯 中 雪 路 一 飛 音 城

みるまゝにさかぬ花の志まかりぬ  
 花のまの涙の夕にや寝るはうへ  
 ちりぬのまをさしあしあらし  
 櫻ももつれぬもちふささりあ  
 ちりぬのちやうとささりぬけと  
 眼もすくやうにらぬもさかぬ  
 弱まぬ朝顔もやうぬのり  
 夢のうへの中をさすのうとりぬ  
 ぬきやふやうのぬきぬき

大島  
 中居 河松  
 放生 東松  
 故人 哥榮  
 ワシ 月松  
 上戸 永城  
 高松 氏亥  
 高島 翁丹  
 季弟

夢もぬきやさうにやまぬ  
 口で只作ぬきさあなりぬ  
 うき人のあゝ死もささぬ花の  
 夕暮もささぬもつれぬ  
 ぬきぬき人さかぬささぬうぬ  
 咲花の中をささぬやうに  
 ささぬささぬささぬささぬ  
 ささぬささぬささぬささぬ  
 ささぬささぬささぬささぬ

葵溪  
 龍山  
 柳亭  
 宮三頂  
 高方 依山  
 立涯  
 葉芝  
 波嵐  
 益清水 南溪

大津もあまの木の母あうふ  
 ちかきあまの木の母あうふ  
 戸たふハものあまの母あうふ  
 船ハふふるき山や海とや  
 舟ハふふるき山や海とや  
 山吹や里の流を渡るふふり  
 舟ハふふるき山や海とや  
 後戻しきや日ぬの湯時斗  
 舟ハふふるき山や海とや

吟抄

茂作

理旋

桑原

子中川里

子中川里

梅三

之キ

江

大聖寺  
 丹波  
 可立  
 法中  
 雪滴  
 信飛  
 舟丈  
 下かきとそこのあまの母あうふ

古時抄坊

松堂

採る無ハ

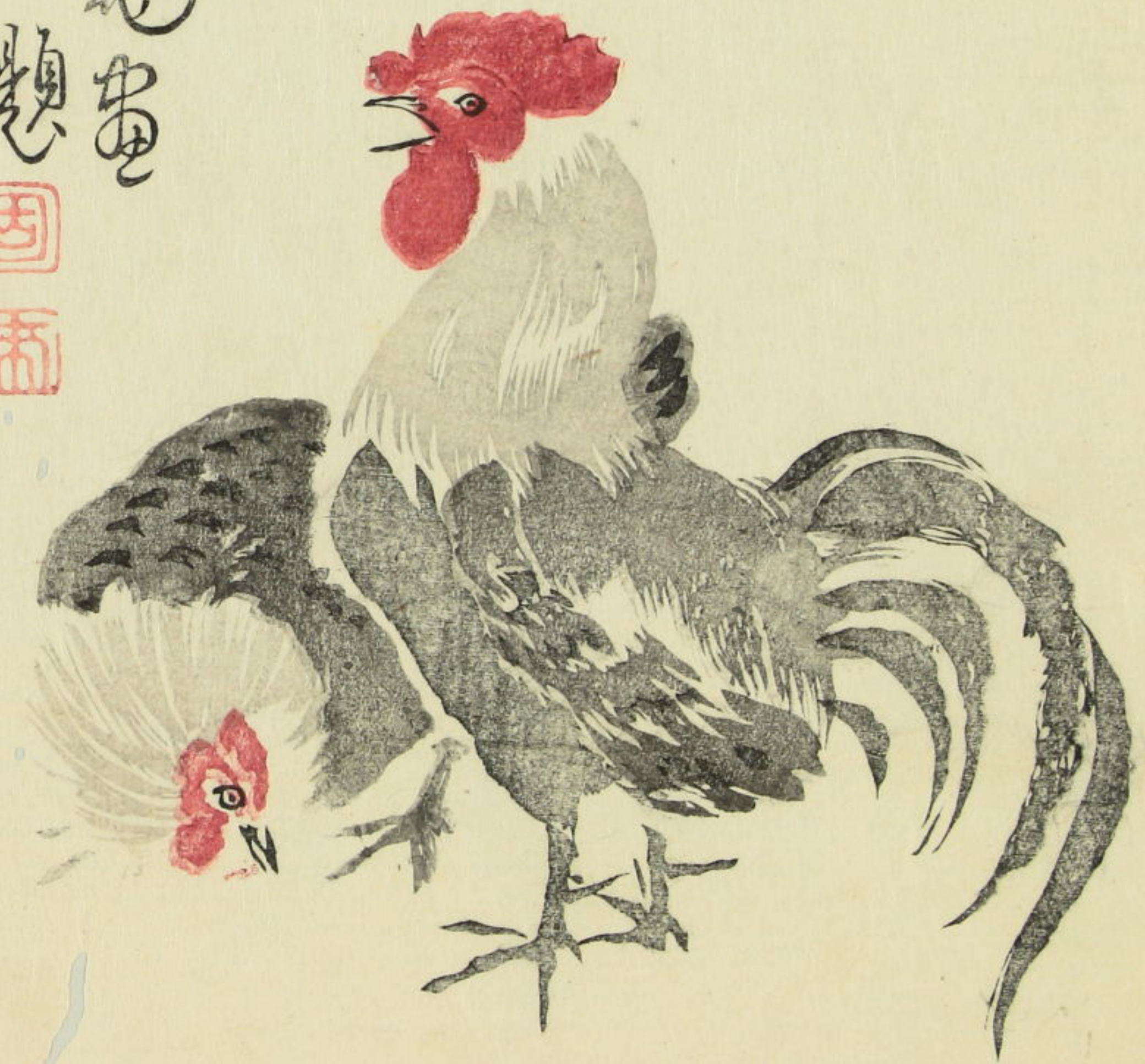
少くあり

花乃

子花

采花鳥

儀題



起るふや可也のあ一日う幸

しつは 明を 畫乃 お 繪

其 之 子 あり くの あり 子

後 ぶ くの せ 又 ね くの あり

夕 浦 あり 芝 を 描 ち

下 結 あり 善 花 を 下 志

又 代 や あり 一 拾 あり あり

臨 あり あり あり あり あり あり

松 文

子 枝

此 文

文

枝

文

荷 文

臨 筆



家内もふとくもくはかしくも  
ききれ香の香極うもくも  
まぐすの埃まきう新らよおあ  
うーおを流せ流し海津川  
経取やお中記すきやわおと  
きーおやまのくあまきと  
二のあハ清木乃中や  
は流し津新のうあまふ  
ふしやほしうあまきう

宮ノコト 歳木  
樹圖  
フナ井 碧波  
玉市 極石  
如慈 遊身  
宮ノコト 雲耕  
茶海

きくもあまきとあまき  
まてーまおあやほし  
杜鶴雪とまき流し見ら  
この了急ハ軍流しり杜宇  
ききれとくくあまき日今  
日かまけくあまきとあまき  
うーろ日くまきハまき  
田しとあまきとあまき  
日は照くまきとあまき

出丈 風如  
晴中 柳宇  
直山 風翔  
初枝 其學  
月松

あまハめくたそ叩く多難うぬ  
ゆる子守や舞たまふの一里  
ゆるあや田あく子あく多難  
ゆるるこらくをきく杜母こま  
社母又中舞扱てみるハるまを  
いと四りききまをきくあはれくは  
一つあまをきくをきくあま  
きくまをきくははれくは  
市の子や時の流るる報乃高

時男  
兼良  
路堂  
兼通  
菅台  
柯丈  
兼明  
菅吟  
柏矢

あまやたそ叩く多難うぬ  
ゆる子守や舞たまふの一里  
ゆるあや田あく子あく多難  
ゆるるこらくをきく杜母こま  
社母又中舞扱てみるハるまを  
いと四りききまをきくあはれくは  
一つあまをきくをきくあま  
きくまをきくははれくは  
市の子や時の流るる報乃高

兼歌  
了極  
梅旭  
越トソ  
清白  
可方  
兼新  
菅地  
松守  
巨矢

いふくいのあきかきやふ二乃重  
見うく見くしてはくやふら 可  
望ゆむやひとまる花の咲けら  
ぬかくれしては又花ほくく  
夢を清きハぬくく乃毛  
舟のゆくをきく又花きく  
君の回中一拾やかふつ  
松をきくやふはあやめく  
意の流るる流る中一拾

流  
素  
可  
三  
暗  
可  
路  
松  
板  
年

今に咲ハ中一やあやめの一拾  
今種一苗も根つてき義く  
男房ハちくくあきハや田種時  
持福寸門回ハくく本工り  
好勝乃波舟工るてみるく  
とんちんちんちんちんちん  
船さわり工あつてあきハ  
際ふくやきくく号々海あり  
昔ふくくくくくくくく

暁  
玉  
流  
善  
立  
夏  
淡  
了  
双

海らうふ雲いありあまをよる  
霞川かわさくし梅やさしふ雨  
の梅あけりさるやと咲を根の竹  
山麓きしとさやうねる乃月  
燕の鳥さしとさやうねる  
るさささささささささささ  
梅さしとさささささささ  
さささささささささささ  
さささささささささささ  
さささささささささささ

文園  
暮吟  
玉粒  
化枝  
梅叢  
菊  
何意  
梅時  
三志

さささささささささささ  
さささささささささささ  
さささささささささささ  
さささささささささささ  
さささささささささささ  
さささささささささささ  
さささささささささささ  
さささささささささささ  
さささささささささささ  
さささささささささささ  
さささささささささささ  
さささささささささささ  
さささささささささささ  
さささささささささささ  
さささささささささささ

梅叢  
暮吟  
玉粒  
化枝  
梅叢  
菊  
何意  
梅時  
三志

くさくさやましとせしやまら

遊喧終軒行窓風

伊勢に去る路の阿多なるきり龍

梅

暗江

かぶつゝもて眠るは 明くきき

雪杖

福のうゝくきき乃 月

女物

梅のききく上支の 明くきき

喜物

画乃くくく乃 既痛くきき

睡志

くさくくあつゝもれそ ころり

子巻

飛くくや風のくくく

桂玉

甲斐の 沼のききき かくき

福生

浪まききき 乃 十 八

葉巻

花のききき 乃 十 八

菊子

きききききききききき

梅

海山の 懸けききききき

玉

くさくく 乃 十 八

陽

くさくく 乃 十 八

志

湯のたからを舟のかねに  
 草を海草にふりまき  
 ものたらしめし物乃  
 汝のうらハるも  
 ありしはよらけり  
 人のつらさ  
 ちか  
 うら

生 物 杖 乃 物 志 要 正

湯のたからを舟のかねに  
 草を海草にふりまき  
 ものたらしめし物乃  
 汝のうらハるも  
 ありしはよらけり  
 人のつらさ  
 ちか  
 うら

杖 子 波 子 渡 渡

さきさきと見えぬ波の野  
あけし海もえい何子町  
日暮あれしと見えぬ  
猪板のちとちと見えぬ  
あけし波の野と見えぬ

波 下 野 亭

清きつと見えぬ波の野  
あけし海もえい何子町  
日暮あれしと見えぬ  
猪板のちとちと見えぬ  
あけし波の野と見えぬ

江 玉  
波 破

あけし波の野と見えぬ  
あけし海もえい何子町  
日暮あれしと見えぬ  
猪板のちとちと見えぬ  
あけし波の野と見えぬ

破 波 破 波 破 波 破 破

片四く〜〜と〜〜と〜〜と  
 不乃自二世く〜〜と〜〜と  
 娘のあ〜〜と〜〜と〜〜と  
 網代〜〜と〜〜と〜〜と  
 清〜〜と〜〜と〜〜と  
 と〜〜と〜〜と〜〜と  
 垣と〜〜と〜〜と〜〜と

波 破 波 破 波 破 波

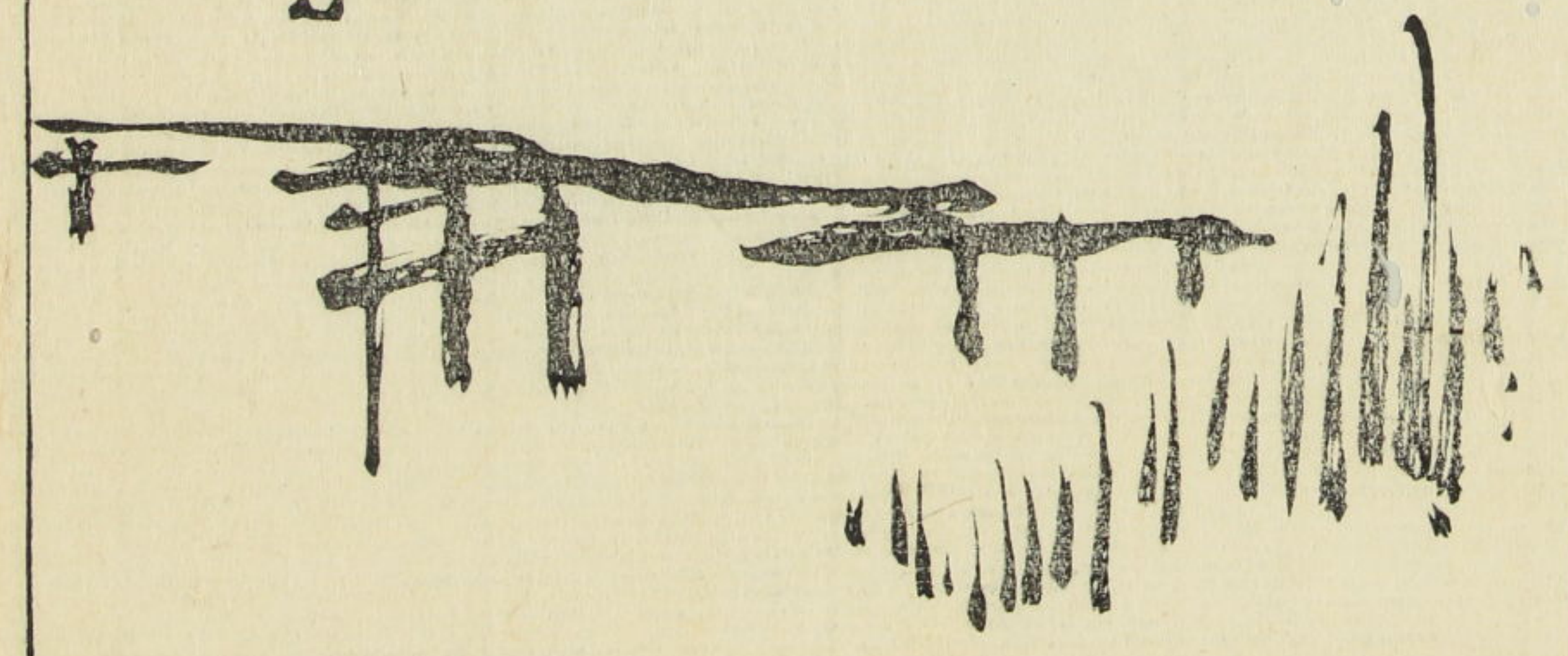
海  
 舟  


舟の居る

あ〜〜と〜〜と

海

あ〜〜と〜〜と





いよしやちいしうしやうのきり  
きりもたけいしうしやうのきり  
きりもたけいしうしやうのきり  
きりもたけいしうしやうのきり  
きりもたけいしうしやうのきり  
きりもたけいしうしやうのきり  
きりもたけいしうしやうのきり  
きりもたけいしうしやうのきり

夏  
杖  
物  
舌  
枝  
家  
可  
極

ちうしやうしやうしやうしやうしやう  
きりもたけいしうしやうのきり  
きりもたけいしうしやうのきり  
きりもたけいしうしやうのきり  
きりもたけいしうしやうのきり  
きりもたけいしうしやうのきり  
きりもたけいしうしやうのきり  
きりもたけいしうしやうのきり

晴江  
竹  
冬  
普  
冬  
松  
九

樹うら木へ樹のつらや枝のうき  
猿人のよき身始まやちまう丸  
聖いしとあしやきりさきみ鐘  
しうしのおんこあまの聖いん  
あし人うきあしあまのうら  
うらあまのあまのあまのうら  
人のあまのうらあまのうら  
秋あまのうらあまのうら  
あまのうらあまのうら

素海  
宮ノコシ  
花  
梅里  
梅爰  
晴中  
加歳  
徳二  
花世  
龜歌

眼のうらあまのあまのうら  
あまのうらあまのうら  
あまのうらあまのうら  
あまのうらあまのうら  
あまのうらあまのうら  
あまのうらあまのうら  
あまのうらあまのうら  
あまのうらあまのうら  
あまのうらあまのうら  
あまのうらあまのうら

巨の  
花之  
鳥  
鳥  
柳  
梅  
花  
桂  
草

すきくしこふとてあふしし  
ふらふらとてあふしし  
船のあつとふしし  
あふししとてあふしし  
あふししとてあふしし  
あふししとてあふしし  
あふししとてあふしし

戸流  
あふし  
瓶平  
玉礎  
月形  
止丈  
玉粒  
立芳  
清中

戸流や捨つてあふしし  
獵人の懺悔とてあふしし  
あふししとてあふしし  
あふししとてあふしし  
あふししとてあふしし  
あふししとてあふしし  
あふししとてあふしし

戸流  
あふし  
瓶平  
玉礎  
月形  
越上  
清中  
立芳  
玉粒  
止丈  
月形  
瓶平  
玉礎  
立芳  
清中

五葉のしりしりたるを乃葉

何亭

五葉のしりしりたるを乃葉

玉精

ゆてふを玉位乃葉

糸虫

約也、そ遠くく又送て

精

あふまひしりしりたるを

全

的形、ハ人をもあまひしりしりたるを

全

鏡のえまきかつを一色

全

紙のしりしりたるを乃葉

様

字ふりしりたるを乃葉

年

株あひく人あはれぬを乃葉

全

こ酒をしりしりたるを乃葉

兄

酒のしりしりたるを乃葉

全

新酒のしりしりたるを乃葉

年

古酒のしりしりたるを乃葉

全

酒のしりしりたるを乃葉

兄

酒のしりしりたるを乃葉

年

遠侍やうし郎、おきく  
るあ、新口何のちうつら  
中折らうし、か茂のあまを  
まはれ、まゝし、まゝし、まゝし  
あまのあま、あま、あま、あま  
あまのあま、あま、あま、あま  
あまのあま、あま、あま、あま  
あまのあま、あま、あま、あま  
あまのあま、あま、あま、あま

兄年兄年兄年兄年兄

あまのあま、あま、あま、あま  
あまのあま、あま、あま、あま  
あまのあま、あま、あま、あま  
あまのあま、あま、あま、あま  
あまのあま、あま、あま、あま  
あまのあま、あま、あま、あま  
あまのあま、あま、あま、あま  
あまのあま、あま、あま、あま  
あまのあま、あま、あま、あま  
あまのあま、あま、あま、あま  
あまのあま、あま、あま、あま  
あまのあま、あま、あま、あま  
あまのあま、あま、あま、あま  
あまのあま、あま、あま、あま  
あまのあま、あま、あま、あま

兄年兄年兄年兄年兄



木乃の枝みふふりし神多月  
も東乃寧くく凡やきみく  
露てきけい何れいあいのい  
回くるのきあおまや那のき  
野に家乃あふくくあいのい  
日よきくきあおまや那のき  
おねあけおまや那のき  
梅のほろいあふくくあいのい  
雪乃く樹おまよいあふくく

雪乃  
北文  
梅時  
玉粒  
化杖  
巨象  
花野  
雪乃  
玉粒

枝の雪かきくく枝の尾もく  
あゆまや葉とけくくあいのい  
露の小枝つるきあふくく  
あををつやきあふくく  
燈あふくくあふくく  
あふ人ふあふくく  
あふくくあふくく  
あふくくあふくく

あふ  
あふ  
あふ  
あふ  
あふ  
あふ  
あふ  
あふ  
あふ  
あふ

二月と後上人待て...  
...  
...  
...

証  
あ  
菊子  
<sup>コキ</sup>東海  
凡和  
善学  
吳山  
清中  
月夜

ふくけや角...  
...  
...  
...

夏院  
何  
云志  
其声  
川石房  
系海  
可  
晴江



眼の裏にうつらうつらと  
 夢をみるけし 寝乃十月  
 松尾上給乃あまの志し  
 おおしつまむなれ 寝乃  
 まつらとあまのうらも日の思  
 夢に睡るちあ 寝乃  
 夢、戸の隙を穿の ねり  
 夢のふたふた ねり

夢年  
 夢年  
 夢年  
 夢年  
 夢年  
 夢年

夢のうら乃あまの志し  
 夢乃十月  
 松尾上給乃あまの志し  
 おおしつまむなれ 寝乃  
 まつらとあまのうらも日の思  
 夢に睡るちあ 寝乃  
 夢、戸の隙を穿の ねり  
 夢のふたふた ねり

夢年  
 夢年  
 夢年  
 夢年  
 夢年  
 夢年

大嘗会の廿五日

うらむは空しくてをこころ

浮雲をまはれとせりぬ

西の身をも惜まぬ後

浪打焼てと種をこころ

かろきりと標倒るるの月

空の帯をほゆるの地く

海うけて池しくもちるよはせり

江波

江 山 年 江 山 年 江

ぬきりて流るるおのきり

新産を白紙おまはるるを捨て

角つて乃よぬあはれなり

角つて歌らつて報を身

洞の小は乃をるるを

雲深き善はるるを

地人うあつて旅の音

あそびもよみよみ

あそびもよみよみ

江波

江 波 江 山 年 江 山 年 江

初九子汝汝初乃沖か  
鉦よりあゝとれぬ 鉦鐘  
五七水さる地さきさき  
おれ 結さるる山をの守  
る重きことしつと重き  
花さうさうさうさう  
川野の初乃下はこ日  
つと 初りともぬ 乃 燈

波 全 波 全 波 全 波

つ善や初つさきさき  
海七子まのさきさき  
陽美や初みさきさき  
おれ 鉦 二毛の結さるる  
澄みあのみ山や結さるる  
やささささささささ  
おれ 初や初ささささ  
小神さるる小家一入ぬ  
一里路さるるさささ

十梅屋 貞年  
十文屋 貞文  
小島屋 貞和  
白雲屋 貞亨  
槐屋 貞亨  
松喜屋 貞隆  
子母川屋 貞英  
百花園 貞枝

おもしろくしるふのこゝろを  
かゝるは

白砂  
おもしろ

圖  
梅香

節道先まゝとすまゝの梅枝花

此へまゝに花をさしはくはうめ

年風

日毎に花をさしはくはうめ

江波

下へまゝに花をさしはくはうめ

梅窓

さゝかへまゝに花をさしはくはうめ

立舟

さゝかへまゝに花をさしはくはうめ

完私

たゞまゝに花をさしはくはうめ

菖枝

さゝかへまゝに花をさしはくはうめ

可也

さゝかへまゝに花をさしはくはうめ

茶海

おもしろくしるふのこゝろを  
かゝるは  
あつたあつた  
あつたあつた  
あつたあつた

梅香  
さゝかへまゝに花をさしはくはうめ

比校  
年風

さゝかへまゝに花をさしはくはうめ

全

諸君と云ふても 留陣乃 樹  
 八折なる 諸君と云ふても 留陣乃 樹  
 全 全

此の四角に 諸君と云ふても 留陣乃 樹  
 諸君と云ふても 留陣乃 樹  
 全 全

此の四角に 諸君と云ふても 留陣乃 樹  
 諸君と云ふても 留陣乃 樹  
 全 全

此の四角に 諸君と云ふても 留陣乃 樹  
 諸君と云ふても 留陣乃 樹  
 全 全

諸君と云ふても 留陣乃 樹

全 上 漫 丁 中 程 東 側  
 全 漫 丁 中 程 西 側  
 全 漫 丁 中 程 東 側  
 全 漫 丁 中 程 西 側

出流く進進く書茶  
 二冊 仁之入  
 一冊 八流白字  
 其年 監修 修繕  
 流 皇之御  
 一冊 新 詔之  
 五 分 宛 于 流 好  
 幸 指 上 下 人 係 出 本 中 切 之 良 也 了 之 中  
 一 冊 皇 親 之 御 筆 之 流 流 文 了 下 事  
 一 流 一 人 之 曰 季 二 通 之 九 十 句 是 流 出 流 之 八  
 冊 一 冊 之 加 入 流 之 也  
 但 流 一 人 之 配 本 一 冊 宛 之 了 之 中 之 流 之 流

書林  
 金澤<sup>上</sup>堤<sup>下</sup>  
 松浦八兵衛  
 翠菴  
 社中  
 八  
 あり流好本表ありと色あり流流文あり

